

立命館經濟學

第四卷 第一号

昭和三十年四月

内 容

論 說

- 経営学における労務の考察……………祭原光太郎 1
ゼウ理論にたいする二つの批判……………住ノ江佐一郎 33
わが国飲業における親方制度の解体過程……………大 山 敷 太 郎 55
——「わが国飲業労働における封建制と親方制度」補論その一——
四四年手稿断片「疎外された労働」における
マルクスの哲学思想（下の上）……………樋 田 明 秀 78

資 料

- 工業史の一断片（下）……………淡 川 康 一 117

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学

第三卷・第六号

論説

「四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想（上）

梯 明秀

唯物論についての覚書（其の二）

阿部 矢二

日本輸出入銀行

——従属化、軍事化の貿易金融中枢としての——

武藤 守一

研究

近世都市近郊に於ける農民生活

——城州乙訓郡今里村における庄屋解職運動について——

足立 政男

「標準原価計算」に関する若干の考察

寺 島 平

景気変動論についての一試論

——シムペーターをめぐる——

浜崎 正規

発行所

立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第三卷・第七号

阿部教授還暦祝賀論集

徳野灘沿岸漁村における「本役〔本家株〕・半役

〔分家株〕制」と漁業共同経営

大山敷太郎

住民税論

藤谷 謙二

世界労連の結成と分裂

平田 隆夫

新企業担保制度に関する若干問題

井上巖次郎

日本長期信用銀行

武藤 守一

——日本経済従属化軍事化の設備金融中枢として——

フオード五〇年

木村喜一郎

発生主義の会計における

実現主義の問題

津ノ園長四郎

「四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想（中）

梯 明秀

発行所

立命館大学人文科学研究所